



過去のFACTBOOKは  
こちらから

# FACT BOOK 2026



# FACTBOOK2026

## 目次

JPF アイデンティティ	03
公営競技場の新しいカタチ	05
地域にひらかれた世代をつなぐ交流の場へ	07
安全に自転車を学べる場へ	09
自転車で走る「楽しさ」を広げる場へ	11
アスリート育成パスウェイ	13
PROJECT2048	15
CEO メッセージ	17
名古屋競輪場	19
富山競輪場	21
千葉 JPF ドーム	23
松阪競輪場	25
京都向日町競輪場	27
山陽オートレース場	28
スポーツ × 地域活性	29
写真判定業務	31
審判 VTR 業務、テレビ業務	33
その他の業務、実績	34
デジタル業務	35
人材育成	37
奨学金制度	38
アスリート出身社員	39
沿革・ネットワーク	41

# OUR PURPOSE

公営競技から  
街を元気に



自転車競技を  
日本の  
メジャースポーツに

## 私たちJPFの存在意義

私たちは、公営競技を起点に地域と人をつなぎ、街に新たな活力を生み出すことを使命としています。

公営競技場は単なる開催の場ではなく、スポーツの普及や子育て支援、健康増進など多様な取り組みに活用できる地域交流の拠点です。

そこから生まれる世代を超えたつながりが、暮らしの質を高め、街の魅力と価値を再発見する力となります。

さらに、自転車競技がメジャースポーツとして広がることで、選手の活躍の場が広がるだけでなく、自転車競技そのものを楽しむ人々も増えていきます。

そうして高まる注目や関心は、公営競技という仕組みを通じて新たな参加者を生み、さらなる普及と発展へとつながる好循環を生み出します。

また、この循環が公営競技を通じて街に新たな活力を生み出します。

私たちはこの循環の輪をより大きく、より力強いものへと育て、日本の自転車文化の発展と地域社会の未来に貢献していきます。



## 企業理念

人の成長機会を  
提供できる企業で  
あり続けること

## 行動指針

好奇心・問題意識を持ち続け、  
自ら変化を創り出す

他人と比較せず、  
自分と向き合い、自責思考で行動する

個性・人格を尊重し、  
自分・家族を大切にする

# 公営競技場の新しいカタチ

公営競技場は今、従来の競技施設の枠を超え、地域に開かれた新たな公共施設へと進化しています。私たちは、その広大で安全な環境を生かし、地域の祭りやスポーツ教室などを開催しています。子どもからお年寄りまでが気軽に集い、公営競技に馴染みのなかった人々も訪れる、世代を超えた交流の場となっています。さらに力を入れているのが、車の往来がない安全な走行環境を生かした自転車振興です。初心者向け自転車教室では、正しい乗り方やルールを学びながら成功体験を積み重ねる機会を提供しています。その次のステップとしてBMXやMTBなどの体験会やサイクルクラブの運営、本格的な練習環境や育成支援体制の整備まで、一貫した取り組みを展開しています。

安全な学びから挑戦、そして生涯にわたる楽しみへ。公営競技場は、地域とスポーツ、人のつながりを支える街のシンボルとして、新たな公共の価値を創出し続けています。

自転車で走る「楽しさ」を広げる場へ

地域にひらかれた世代をつなぐ交流の場へ

安全に自転車を学べる場へ



# 地域にひらかれた 世代をつなぐ交流の場へ



ダンスイベント

バスケットボールスクール

恐竜レース

真夏の雪あそび

PIST6お仕事体験

ウォーターパーク

スライムづくり

バンクお絵描き

おもてなし食堂

パンまつり

夏祭り



## 様々な世代が交流できる場はどこにある？

近年では、子どもからお年寄りまで、日常的に交流できる場が不足しています。特に、子どもたちが安全に身体を動かせる遊び場や、多世代が自然にふれあえる広大な空間の確保は、多くの自治体にとって共通の社会課題となっています。私たちは、公営競技場の持つ広大な空間と設備を、この社会課題を解決するポテンシャルを秘めた公共施設と捉えています。バンクや広場を一般開放し、スポーツ、食、文化などの多様なイベントの場として活用することで、誰もが安心して集える場所へと進化させ、地域の方々のつながりが再構築される場となるよう日々運営しています。

# 安全に自転車を 学べる場へ

## 自転車の乗り方やルールはどこで学ばいいの？

自転車にも交通反則通告制度（いわゆる「青切符」）が導入されるなど、社会の中で安全な自転車利用への関心が高まっています。こうした背景の中、私たちは安心して自転車の練習ができる公営競技場の環境を生かし、子どもから大人までが正しい乗り方や交通ルールを学べる機会を提供しています。

補助輪外しや基礎練習など、一人ひとりの成長段階に応じた指導を通じて、安全に走る技術と「できた」という自信を育みます。また、スタッフや社員が共通の考え方や手法で指導できるよう、独自に作成した「教え方 BOOK」に基づく統一指導を実施。安全性と指導の質を確保し、誰もが安心して自転車に向き合える環境を整えています。



補助輪外し教室

サイクルフェスタ

自転車の指導研修

自転車乗り方教室



## 自転車で走る 「楽しさ」を広げる場へ

自転車をスポーツとして楽しむには？

自転車を移動手段にとどめず、スポーツとして楽しむ入口を地域に広げています。安全に自転車に乗れるようになって、その先に「楽しさ」や「続けるきっかけ」がなければ、自転車は日常の中で埋もれてしまいます。そこで、MTB・BMX・トラックバイクなどの体験教室を通じて、自転車の多様な魅力に触れる機会を創出しています。

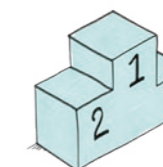
初心者でも安心して初めてのレースに臨めるイベント「MTB Challenge」では、挑戦する楽しさを届けることで、自転車を続けるきっかけを提供します。また、各地で開催している「サイクルクラブ」では、継続的に活動できる場を整えることで、自転車を日常的に、そして生涯スポーツとして楽しめる環境づくりを進めています。

JPF が考える

# アスリート育成 パスウェイ



世界で戦う



勝ちに行く



大会に出る

ワザ・速さを磨く

大会での目標達成のために  
トレーニングをする

生涯スポーツ・娯楽として楽しむ

スポーツとして  
楽しみ始める自転車を好きになり  
より時間を費やす

自転車で遊ぶ

自転車に乗り、楽しむ

自転車に乗る

移動手段として自転車を利用する

## サイクルスポーツ人材の 育成に向けて

JPF では、スポーツ振興とサイクルスポーツのメジャー化を目指し、さまざまな活動を展開しています。その中で私たちは、公益財団法人日本自転車競技連盟が提唱する「アスリート育成パスウェイ」の考え方に賛同し、自転車振興活動に取り入れています。

JPF が考えるアスリート育成パスウェイでは、幼少期に様々な自転車競技種目、特に BMX や MTB といったオフロード種目を体験することが、将来的に他種目で活躍するための基礎になると考えています。オフロード種目では、舗装されていない路面や起伏のあるコースを走行する中で、路面状況の変化に応じて身体を柔軟に動かすバランス感覚や体幹が求められます。オフロード種目を体験することで、身体の使い方やコーディネーション能力（自分の身体を自在に操る能力）を身につけることができ、ロードやトラックといっ

た他の自転車競技種目にも生かされます。また、これらの能力は自転車競技に限らず、多くのスポーツに共通する基礎的な運動能力としても重要です。特に運動能力が大きく発達すると言われている幼少期（2歳～12歳）の間に機材を使ったスポーツを経験することで、バランス感覚や体幹、コーディネーション能力といった基礎能力を効果的に育むことができます。この考え方のもと、JPF では公営競技場を活用し、バンク開放や BMX・MTB 体験、パンプトラックの整備などを通じて、子どもたちが様々な自転車競技種目

に触れる機会を創出しています。公営競技場という安全な環境の中で自転車に乗る体験を重ねることで、「もっと速く走りたい」「ジャンプができるようになりたい」「凸凹道を走ってみたい」といった意欲が生まれ、スポーツとしての自転車との出会いへとつながっていきます。

JPF はこうした取り組みにより、将来のサイクルスポーツを担う人材の育成につなげていきます。

JPFが目指す未来

## PROJECT 2048

## 自転車競技を日本のメジャースポーツへ

自転車競技における「メジャースポーツ」の定義とは何か。

その一つの答えは、世界の舞台で圧倒的な結果を残し続けることにあります。

かつてイギリスは、約20年という歳月をかけて競技者育成システムの改革を行い、

わずか1枚のメダルから世界最多のメダルを獲得する強豪国へと飛躍的な成長を遂げました。

そして、その活躍が国民の熱狂を生み、自転車競技を誰もが知るメジャースポーツへと押し上げたのです。

近年、日本でもトラック種目における世界選手権優勝や、BMX フリースタイル種目での若手選手の活躍など、世界と互角に戦える力を示しはじめています。

しかし、真の強豪国となり、競技を文化として定着させるためにはトップ層の強化だけでなく、その原石を生み出し続ける広大な「土壌」が不可欠です。

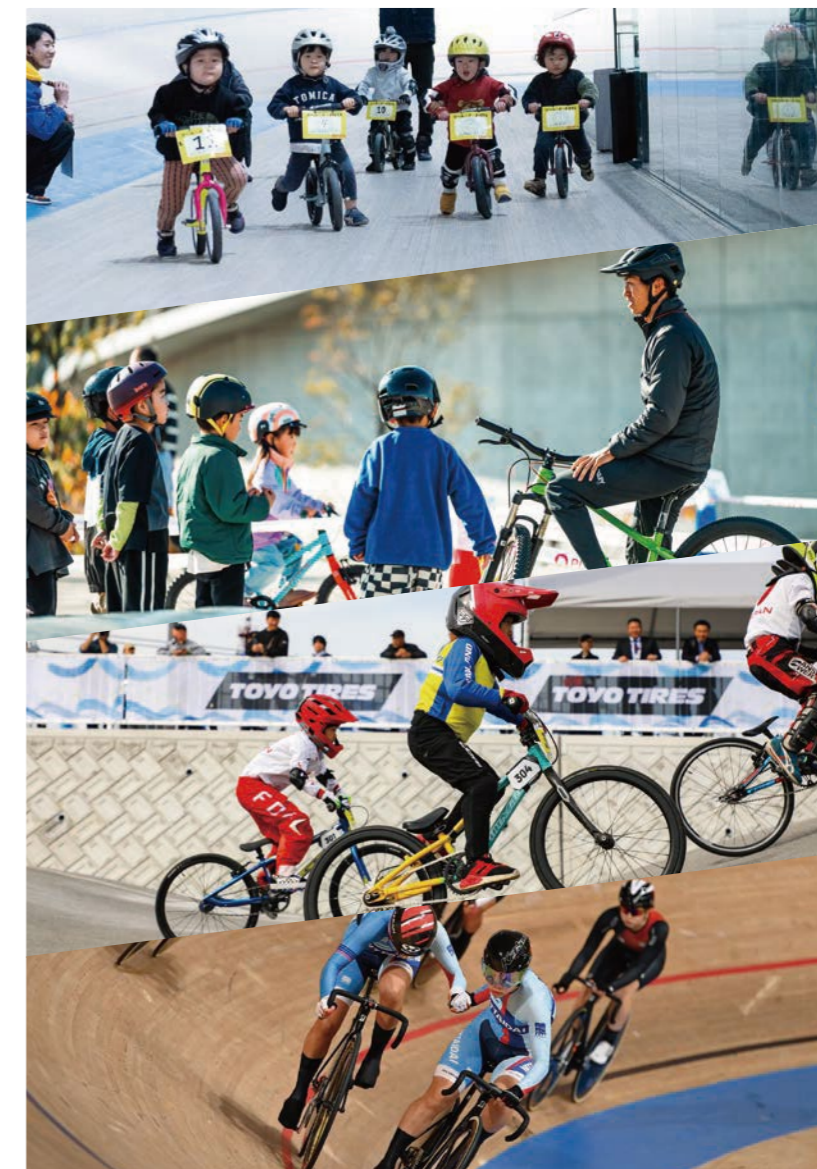
その実現に向け、私たちは **競輪誕生100周年** を迎える2048年を見据えた長期ビジョン

**PROJECT 2048** を策定しました。

私たちが目指すのは、2048年までに日本が自転車競技において世界最高峰の舞台で最多となる13個以上のメダルを獲得する国となること。

そして、次世代の才能が自然に育ち続ける環境を構築することです。

JPF



## PROJECT 2048 が目指すもの

2048年までの22年間は、メダル獲得を目指すアスリートを育成するために不可欠な時間です。私たちは単発の施策ではなく、アスリート育成パスウェイに基づく継続的な取り組みによって、サイクルスポーツを文化として日本に根付かせていきます。その入口としてオフロード種目を位置づけ、幼少期にこそ身につけたい基礎バイクスキルを育みます。あわせて、全国の競輪場を子どもたちが多様なスポーツと出会える拠点へと発展させます。競輪場が地域のスポーツ拠点として機能することで、自転車競技との接点を持つ人口は着実に広がり、将来的な競技者層の拡大へとつながります。競輪誕生100周年を迎える2048年、日本が自転車競技でメダル獲得数世界一となることを目指して。私たちはこうした積み重ねを通じ、**世界最高峰の舞台で最多となる13個以上のメダルを獲得**しうる「未来の日本人メダリスト」の発掘と育成に取り組んでいきます。

# 競輪場のある街に住みたいを実現



ダトー・アマジ・シン・ギル会長  
国際自転車競技連合（UCI）副会長  
アジア大陸自転車競技連合会長



株式会社JPF 代表取締役

**渡辺 俊太郎**

Shuntaro Watanabe

- 1990年 慶應義塾大学法学部法律学科卒業
- 1996年 弁護士登録
- 2002年 異法律事務所開設
- 2007年 日本写真判定株式会社（現・株式会社JPF）代表取締役就任
- 2013年 自転車ADRセンター調定委員就任
- 2014年 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科トップスポーツマネジメントコース卒業  
修士論文「競輪場が果たすべき役割についての研究」を発表
- 2017年 公益財団法人日本自転車競技連盟常務理事/理事（2017～2023年まで）就任
- 2018年 一般財団法人日本サイクルスポーツ振興会 代表理事就任

JPF はこれまで競輪場を中心に人々が日常の中でスポーツを身近に感じられる環境づくりを進めてきました。

『競輪場のある街に住みたい』とさせていただきたい。この想いは私たちの大切な考えの一つです。2025年は千葉に続き、名古屋と京都で新たな取り組みがスタートしました。

名古屋では、競輪バンクに隣接した国際規格のBMXレースコースを整備し、アジア選手権を開催しました。本大会の運営は、JPFスタッフも中心となって携わりました。

このコースは、名古屋市街地からほど近い絶好の立地であり、アジア大陸自転車競技連合のアマジ会長からも、「クオリティとロケーションの両面で、アジアトップクラス」と高い評価を受けています。今後は国際大会などでの活用を通じて、アジアBMXのメッカとなることが期待されています。さらに、子どもたちがすぐに競技を体験できる環境も整っており、地域のスポーツ環境としても非常に価値の高い拠点であると感じています。まさに、国際大会を契機に地域に根付くスポーツ拠点の形成につながる取り組みです。地域の子ども

たちがBMX体験を通じて、自然とトラック種目、そして競輪へ興味を広げていく環境が整いました。JPFが大切にしている、自転車振興の活動に関して体系化したアスリート育成パスウェイに沿って、今後も自転車競技の普及を進めていきます。

京都向日町競輪場では、老朽化した施設の再整備に伴い、競輪場敷地内にBリーグ規格のアリーナが建設されます。JPFは、アリーナの新設とともに整備される新たな競輪施設の再整備・運営を担うことになりました。2018年より同競輪場でJPFが運営してきたBMXフリースタイルパークは、新施設にも引き続き設置します。さらに、キッズルームやスポーツバーなど、地域の方々が気軽に足を運べる施設をアリーナと一体で整備し、子育て支援にもつなげる環境を整えることで、日常に溶け込みながら自然と人が集まる「街の顔」となる場所を目指します。本プロジェクトは、「24年」という長い時間をかけて進められます。幼い頃にこの場所を訪れた子どもたちが、成長の過程でスポーツに親しみ、挑戦を重ねながら大人になっていく。私たちは、その一人ひとりの

成長の機会を後押ししていきます。

競輪場とともに人が育ち、街が育っていく。名古屋と京都で進めているこれらの取り組みは、JPFが掲げる想いを体現するものです。私たちはこの取り組みを全国へ広げ、『競輪場のある街に住みたい』とさせていただける環境づくりを進めてまいります。



再整備前の京都BMXフリースタイルパークの様子

# NAGOYA 名古屋



## BMXと競輪の精鋭たちが 集結する新拠点

2025年、名古屋競輪場では、国際規格の常設型 BMX レースコースを開設し、アジア選手権を誘致しました。また、当社では初となる競輪の G1 開催という大きな成果も収めました。これは、当社が目指してきた自転車振興の取り組みが形となり、名古屋から自転車競技の未来を創る基盤が整ったことを示しています。私たちはこの地をモデルケースとし、競輪場を核とした次世代選手輩出の仕組みを確立していきます。



## 競輪場併設のBMXレースコースにて、全国初のアジア選手権大会誘致

名古屋競輪場では、場内の一部施設を建て替え、国際規格の常設型 BMX レースコースを整備しました。本施設は「BMXをはじめとしたサイクリングスポーツ振興」と「地域に根ざした施設」をミッションとしています。コースでは初心者でも楽しめるよう、乗り方の基礎を学べるレッスンを随時開催しており、安全にコースを1周できるようになった地域ライダーも増えてきました。



プロ選手による BMX スキルアップ教室も開催し、初心者から上級者までが一緒に技術を磨ける環境を整えています。また、本コースでは日本で初めてアジア BMX レーシング選手権を開催しました。アジア各国の代表選手が出場し、大会は大きな盛り上がりを見せました。

国内外のトップライダーによる迫力あるレースを間近で観戦できる機会を地域の方々に提供し、サイクリングスポーツ振興と地域振興の両立を目指した施設運営を進めています。



## JPF初のG1日本選手権競輪 開催

当社初となる G1「日本選手権競輪」を開催し、成功を収めました。日本選手権競輪は G1 の中でも最高峰とされ、歴史の長いレースです。開催権を獲得するためには、単なる集客力だけでなく、競輪の発展に寄与できるかが重要です。BMX レースコース新設や自転車振興活動を計画に盛り込み、当社として初めて G1 開催を実現させました。本開催では、隣接する公園を借り上げてイベントを開催することで、地域を巻き込んだ一大イベントとして、約 4.3 万名を動員することができました。この実績により、最高峰のビッグレースでも安定して開催できる強固な運営地盤を築きました。



# TOYAMA 富山



## はじまりの地、富山

当社が初めて競輪場の包括運営を受託したのは、2010年の富山競輪場でした。ここは当社の想いを形にした原点であり、まさに「ふるさと」と言える大切な場所です。当時では珍しかった「競輪場を家族で楽しめる施設へ」との指針を掲げ、イベント開催や遊具設置を通じ、ファミリー層に親しまれる環境を築き上げてきました。



## 進化し続けるサイクルパークとやま

子どもから大人まで自転車で遊べる施設として、2020年に「サイクルパークとやま」を開設しました。補助輪なしの練習エリアや、BMX体験が可能なパンプトラックエリアなど、習熟度に合わせて楽しみながら上達できる環境を整えています。



## ふるさとへの想い

富山競輪場の受託は、当社にとって社運を賭けた大きな挑戦でした。当時、この新規事業を成功させるべく、社内の主要戦力を総動員して現場の立ち上げにあたりました。現在、社長を筆頭に経営陣（役員・幹部）の多くがこの富山の地で現場経験を積んだメンバーであることは、その象徴ともいえます。当時のメンバーは皆、富山の現場に飛び込み、地域の方々やお客さまに寄り添う中で、運営の本質を学びました。「今のJPFがあるのは富山に育てられたから」と言っても過言ではありません。

こうした背景があるからこそ、スタッフの地元への思いもひときわ強いものがあります。前任の富山事業所長である吉田祐介は、「多くのスタッフにとって富山は大切な地元。その強い愛着があるからこそ、真剣に富山競輪場の未来を考えている」と語ります。



2025年には、新たに「アドベンチャーエリア」をオープン。富山県産木材を用いた切り株やシーソーなどの障害物を配置し、冒険感覚で楽しめるこのエリアは、「わくわく感」をコンセプトに設計されました。より魅力的に育ち続けているサイクルパークは、自転車を誰もが親しめるメジャースポーツへと広げる重要な拠点となっています。これは、長期的な包括運営を担っているからこそ実現できた成果であり、その進化に終わりはありません。



また、28年にわたり勤務し、その変化を見続けてきたJPF社員の高田恵子も誇りを持って次のように話します。「私にとってここは単なる職場ではなく、多くの出会いが積み重なった大切な場所です。かつては指示通りに動くことが正解とされる風潮もありましたが、JPFが『何事にも積極的にチャレンジする姿勢』を現場に浸透させたことで、空気は大きく変わりました。新しい取り組みを自分たちで話し合い、若いスタッフに挑戦を促す。そうした積み重ねが、競輪場全体を明るく前向きなものに変え、『人が育つ場所』へと進化させました。その変化を間近で見守り、当事者として関わり続けていることは、私にとって大きな誇りです。」

地域への深い感謝と強い思いを胸に、富山競輪場、そしてJPFの挑戦はこれからも続いていきます。



# CHIBA 千葉

## 無限に広がる競輪場の活用法

2021年に竣工した「千葉JPFドーム」は、日本国内の国際規格（木製250mバンク）の自転車競技場で唯一、公営競技が開催できる施設です。同ドームでは、国際ルールに準拠しつつスポーツエンターテインメント性も追求した新しい競輪「PIST6」を同年より開催してきました。現在は開催を一時休止していますが、最新鋭の映像・音響・照明設備を生かし、ライブやスポーツイベントなどに幅広く活用されています。その他、自転車競技の国際大会や3人制バスケットボール大会、地域のお祭りなども定期的開催。こうした多種多様な施設活用は、『競輪場のある街に住みたい』を体現するモデルケースの一つとなっています。



## 都市型公園にパンプトラックを

千葉JPFドームに隣接する千葉公園「芝庭」エリアには有名カフェやスポーツジムが並び、その中で当社は「PIST6 PUMPTRACK CHIBA (PPC)」を管理運営しています。パンプトラックとは、起伏のあるコブが連続したコースを自転車やスケートボードなどのタイヤ付きの乗り物で走行する専用施設です。

2024年のオープン当初は未経験者向けイベントが中心でしたが、BMXレース経験のあるスタッフが常駐することで上級者の利用も増え、利用者層が多様化しました。現在では、スクールや体験イベント、タイムトライアルなどを通じ、誰もが気軽に利用できる仕組み作りと将来の大会開催に向けたノウハウ蓄積を進めています。



## 250mバンクを生かした育成事業

250mバンクを生かした選手育成事業も展開しています。高校生対象の育成プログラムでは、1期生がインターハイで入賞するなど成果が出ており、2025年からは集団走行技術が求められるパンチレースの練習会も開始しました。審判資格者の配置や大型ビジョンを用いたリアルタイムでの指導により、競技者の技術向上と戦術の幅を広げる環境を構築しました。私たちは将来的にこのドームで育った選手が競輪選手として活躍することを目的の一つとしており、2025年はその確かな手応えを感じる一年となりました。



PIST6

PPC  
PIST6 Pumptrack Chiba

# MATSUSAKA 松阪



## 強い競輪選手、 自転車競技選手を松阪から

松阪競輪場では、「松阪サイクルクラブ」を通じて、補助輪に乗る子どもから本格的に競技に挑む選手まで、一貫して成長を支える環境づくりを推進しています。2025年には、競輪選手および自転車競技者を対象とした本格的なトレーニング施設「松阪サイクルトレーニングセンター」がオープンし、より専門的かつ体系的な育成プログラムの実施が可能となりました。これにより、競輪場を松阪市のスポーツ拠点とし、松阪から強い競輪選手・自転車競技選手を輩出するという目標に、大きく前進した一年となりました。

**松阪ツイン**



## 自転車デビューから挑戦まで支える「松阪サイクルクラブ」

松阪競輪場では、一連の自転車振興の取り組みを「松阪サイクルクラブ」として位置づけ、継続的に活動してきました。自転車に乗れない子ども向けの補助輪外し教室から、バランス感覚やテクニックを磨く RIDE MASTER ACADEMY、

競技者向けのバンク練習会など、普及・育成・強化までのステップアップが1つの場所で実現可能です。本クラブでは、10年間で10名の競輪選手が誕生しています。今後も継続的に強い選手を輩出していくことが私たちの目標です。



- ① 補助輪外し教室 ③ BMX・MTB 体験会 ⑤ バンク練習会 ⑦ エビチャリ

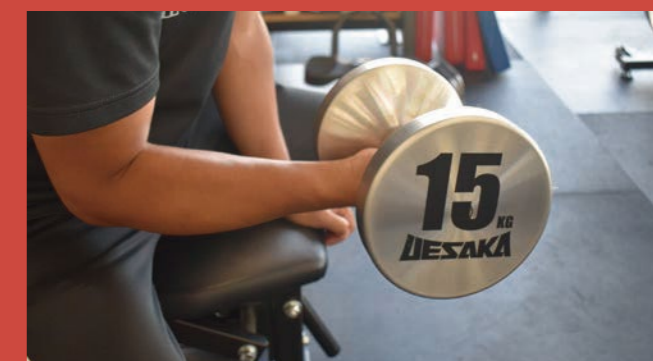


- ② 自転車乗り方教室 ④ RIDE MASTER ACADEMY ⑥ 松阪サイクルトレーニングセンター

## 会員制トレーニングジムのオープン

2025年4月に開設した「松阪サイクルトレーニングセンター」は、競輪選手・自転車競技選手を対象とした会員制トレーニングジムです。近年、ウェイトトレーニングを練習に取り入れることで好成績を収める選手が増えていることから、自転車競技においてもフィジカル強化の重要性が高まっています。本施設は、こうした時代の流れと競技者のニーズを踏まえて整備され、月に延べ約100名の競輪選手が利用しています。また、松阪サイクルクラブの会員である自転車競技者や学生が、バンク練習後にそのまま施設を利用する姿も多く見られます。

同じ空間でトレーニングすることで、競輪選手がクラブ会員に指導を行ったり、共に練習に励むなどの交流も生まれています。現役選手はもちろん、選手を目指す高校生などの競技者が安心してフィジカルを鍛えられる環境を整えることで、松阪競輪場から多くの選手が育ち、競輪業界のさらなる発展につながることを目指しています。



# KYOTO 京都



(注) アリーナ・競輪場ともに今後設計等により変更が生じる可能性があります。

## 日常的に人が集う、 地域に開かれた空間へ

京都市向日町競輪場は、1950年の開設以来、長年にわたり京都府の財政を支え、地域とともに歩んできました。当社の運営期間においては、ミッドナイト競輪の実施を可能とする環境整備にも取り組み、開催形態の幅を広げてきました。一方で、時代の変化とともに、従来の競輪場という枠を超えた新たな価値が求められるようになっていきます。そして現在、日常的に人が集う地域に開かれた空間を目指した再整備計画が、京都市向日町から動き出しています。



## 競輪 × アリーナ × 地域

2029年（予定）の再開に向けて、競輪場とアリーナが連携して運営される前例のない事業が計画されており、「競輪 × アリーナ × 地域」から新しい価値が生まれる仕組みが期待されています。スポーツ・イベント・地域交流が同じ動線につながることで、競輪場はこれまで以上に日常へと溶け込み、人が集い、交流が生まれる場へと変わっていきます。本計画は2048年度まで続く長期契約を前提としており、時間をかけて地域との関係性を育みながら、競輪場そのものを街のシンボルとして磨き上げていくものです。



再整備が進む中においても、競輪場としての役割が止まることはありません。これまでに、サイクルパーク京都やサイクルクラブから全国大会に挑戦する選手も誕生しました。さらに、2022年からは向日市の定番イベントとなることを目指した「サイクルフェスタ」を開始し、2025年には2,300名を超える来場者を記録しました。こうした取り組みを今後も継続し、地域とのつながりを大切にまいります。

京都向日町競輪  
KYOTO KEIRIN

# SANYO 山陽



## 山陽オートレース場 × はぶつぶフェス

「はぶつぶフェス」は、山陽小野田市の植生・津布田地区の魅力創出および地域活性化を目的として企画されたイベントです。2025年に初開催され、約1,200名を動員しました。多くの市民から再開催を望む声が寄せられ、2026年には2回目の開催が予定されています。本イベントでは、通常は立ち入ることのできない山陽オートレース場のレース走路を特別開放。地域の方々や家族連れが参加できる2時間耐久リレーマラソンをはじめ、小学生向けの「チャリde走路」、ウォーキングなど、多彩な走路イベントが実施されます。

会場内では、グルメやワークショップなど多数の出店に加え、ステージイベントも開催され、地域の魅力を広く発信する機会となっています。また近年は、スペシャルオリンピックスの練習会場としても活用されており、知的障がいのあるアスリートを含む多様な参加者を受け入れています。地域活性化と障がい者スポーツ振興の両面において、意義のある取り組みを展開しています。

## 公営競技最速150キロ、 その先にあるドラマ

山陽オートレース場は、全国にわずか5場しかないオートレース場の一つとして長い歴史を有し、地域に根ざしたエンターテインメントとして広く親しまれてきました。競走車にはブレーキのない二輪専用マシンが使用され、最高速度は時速150kmに達します。選手の卓越した技術がダイレクトにレース結果を左右する、緊張感とスリルに満ちた競技です。

山陽オート

# スポーツ 地域活性化

当社は、『公営競技から街を元気に』という想いのもと、自転車競技や公営競技場施設を活用した地域振興活動に取り組んできました。

その想いをさらに広げ、競技の枠を超えたスポーツの力による地域課題の解決を目指しています。

## Wave Pool

### 理念の共鳴が 草津市に新しい波を起こす

関連会社の株式会社 JPF サーフは、人工サーフィン施設の開発・運営を行う WAVEPOOL 事業を推進しています。世界最高峰の造波装置メーカーであるウェーブガーデン社と技術提携し、滋賀県草津市に新施設を建設予定です。本事業は、両社が抱く『スポーツを通じた地域活性化』への想いが共鳴し始動しました。当社の施設運営ノウハウを生かし、単なるサーフィン施設にとどまらない、多様な人々が集う「交流拠点」を創出します。これにより、交流人口の拡大や遊休地の活用を通じて、草津市の地域活性化に貢献してまいります。

また、草津市で国内屈指の野外音楽フェスを主催する



執行役員 西川 貴教

アーティスト・西川貴教が2025年に執行役員に就任し、「着衣水泳体験やライフセーバー育成など、水と緑の深い滋賀に最適なこの施設を通じて、より一層の地域貢献と地方創生に邁進したい」と語っています。

加えて、日本国内サーフィンリーグ年間王者であり、世界サーフィンリーグのアジアランキング2位の実績を持つプロサーファー・西慶司郎が当社スーパーバイザーに就任。トッププロとしての知見と感性を注ぎ込み、次世代のサーフシーンを牽引する理想の波を創造します。



スーパーバイザー 西慶司郎



## 大多喜



### アスリートが耕す地域の未来

農業界における担い手不足や耕作放棄地の増加、そしてスポーツ界における選手のセカンドキャリア形成という双方の課題解決を目指し、大多喜町（千葉県）に関連会社の株式会社 JPFagri を設立しました。競技活動と並行して社会人としてのキャリアも築く「デュアルキャリア」の考え方のもと、農業・スポーツ・地域活性を結び付けながら、持続可能なモデルの構築に取り組んでいます。

2021年には「大多喜町のヒーローになる」をテーマに3人制プロバスケットボールチーム「esDGz OTAKI.EXE」を設立し、グローバルリーグ「3x3.EXE PREMIER」に参戦。選手は競技と並行して稲作や竹林整備などの農林業に従事するとともに、スポーツスクールの運営や自治体と連携したイベント開催など地域振興活動にも取り組んでいます。

2025年には創設後初のプレーオフ進出を果たし、地域発展に貢献したチームに贈られる「3x3 Town Award」を受賞。さらに、農林水産省および内閣官房主催の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」コミュニティ地産地消部門にも選出されました。

今後も農業とスポーツの相乗効果で地域活性に寄与するとともに、スポーツ界におけるデュアルキャリアモデルの象徴となることを目指します。





# 75年の 信頼と技術

## 写真判定のスペシャリスト

当社は、公営競技の中でも特に競輪の写真判定を主軸に、競輪が誕生した時代から75年にわたり技術と経験を積み重ねてきました。現在では、全国43すべての競輪場に当社の判定カメラが導入されています。さらに、ボートレースやオートレース、競馬など公営競技全般へと展開し、写真判定分野においてシェア No.1 を誇っています。

写真判定は、ゴール前の一瞬を専用の撮影装置で記録し、その画像をもとに着順や勝敗を決定するという、レースの公正性を支える極めて重要な業務です。コンマ1秒以下の差が結果を分ける点は、公営競技に限らず陸上競技をはじめとする多くのスポーツにも共通しており、当社はその一瞬を確実に捉えるために、技術革新と運用体制の改善を続けてきました。

その原点は1950年、当時の日本スポーツ写真判定協会（日本写真判定株式会社）の起点となる協会）会長であった渡辺俊平氏が開発したフィルム式スリットカメラにあります。翌年には特許を取得し、通商産業省（現・経済産業省）より優秀発明品として評価され、1964年の東京オリンピックでは、陸上・自転車・漕艇競技の写真判定に採用されました。その後、技術はフィルムからデジタルへと進化し、現在までに約10世代にわたる改良を重ねています。

当社はこうした技術と現場で培った知見を強みに、公営競技にとどまらず、トライアスロン競技など競輪以外のスポーツ分野においてもゴール判定業務を担い、専門性の活躍の場を広げながら、時代とともに成長を続けています。



## 選ばれ続ける理由

公営競技の写真判定業務は、各公営競技の運営を支える制度のもと、実施団体が専門会社へ委託する形で実施されています。レースの公正性を担保する重要な役割のため、業務には高い公平性・専門性・効率性が求められます。当社は、長年にわたり培ってきた技術力と安定した運用実績を評価され、写真判定業務を継続して担ってきました。

こうした継続的な業務を通じて、関係各所との友好関係が築かれ、安定した受託体制につながっています。また、長年公営競技に携わる中で培われた業界への理解こそが当社の大きな強みです。その知見を生かした新たな提案や技術開発に取り組み、その成果を業界へ還元することで、競輪の発展と公営競技全体の価値向上に貢献することを使命としています。



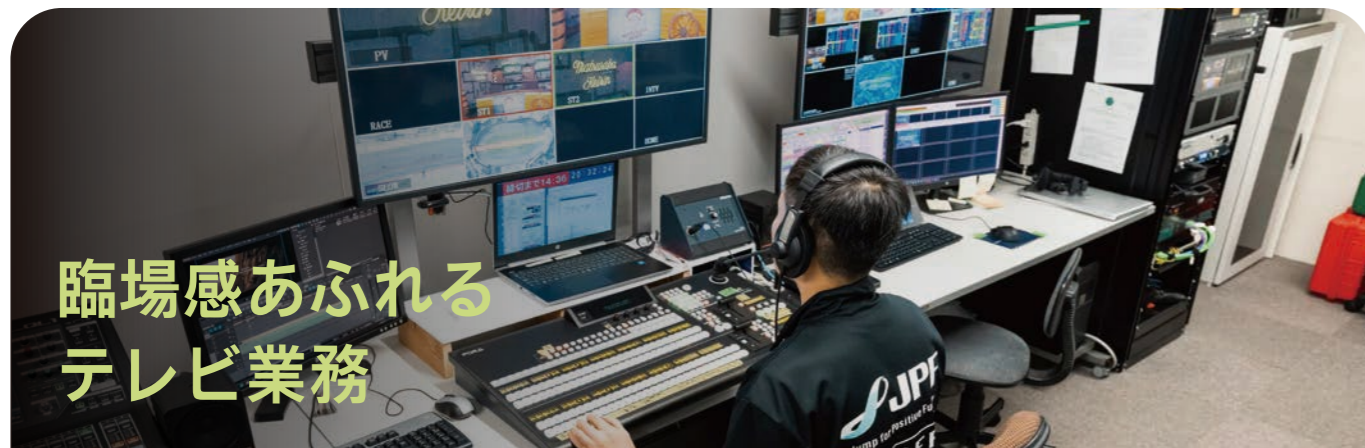


### 公正な判断を支える 審判VTR業務

#### レースを正確に記録

競輪の判定には、ゴールの着順を決める「着順の判定」と、選手の違反行為を確認する「違反行為の判定」の2つがあります。後者は審議と呼ばれ、審判員が判断を行う際の重要な材料となるのがレースを記録した専用審議用映像です。当社は、この審議用のレース映像を撮影し審判へ提供するほか、お客様向けの「審議 VTR」も制作しています。レース映像は、バンク中央にそびえる高さ 20 メートル以上の塔に設置された旋回式カメラ（センターポールカメラ

システム）で撮影されます。オペレーターはレース展開を瞬時に捉え、基本は先頭から最後尾まで途切れなく収める必要があるため、高い集中力と正確な操作が求められます。撮影後は審判員が映像を確認し、審議に必要な場面を抽出して審議 VTR を作成します。こうした一連の業務を正確に行えるのは、競技への深い理解があるからこそです。写真判定業務を通じて長年培ってきた経験が判定を支える映像分野へと発展し、その知見が審判 VTR 業務として結実しています。



### 臨場感あふれる テレビ業務

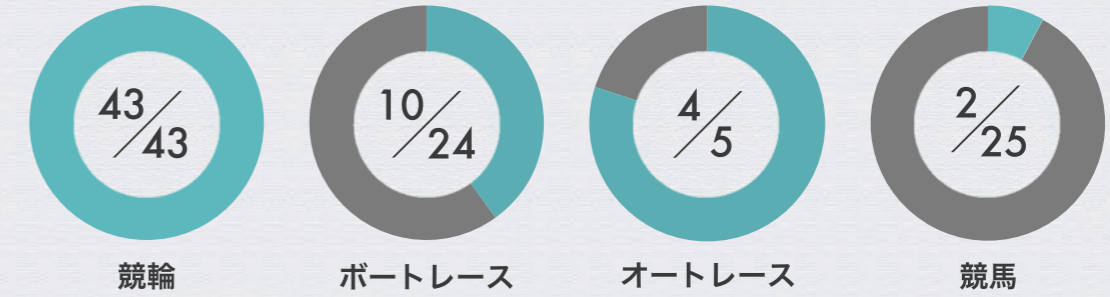
#### レースの興奮をダイナミックに

当社は、審判 VTR 業務で培ってきた映像技術を基盤に、需要の高まる映像分野においてテレビ配信業務を受託してきました。レース開催場や場外発売場でのライブ中継をはじめ、地上波・CS 放送、さらにはインターネット配信まで、公営競技に欠かせない幅広い映像制作を担っています。具体的には、レース映像やゴールの瞬間を捉えたスロー VTR、着順表示、選手インタビュー、表彰式などの式典映像、オッズ情報や各種データといった多様なコンテンツを撮影・編集し、CS 中継や場内モニター、大型ビジョン、オンライン配信へと送出しています。

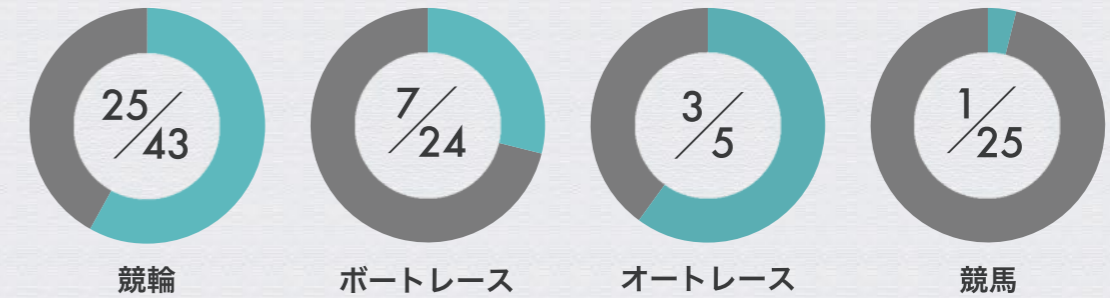
近年はスマートフォンの普及やインターネット投票の拡大により、ライブ映像を見ながら投票する観戦スタイルが一般化しました。コロナ禍による無観客開催が増えた時期を経て、インターネット配信は場所を問わず公営競技の白熱した臨場感を届ける重要な手段となっています。こうした映像業務を支えているのは、カメラマン、映像編集、テロッパーなど専門性の異なるスタッフの連携です。正確で迫力ある映像を安定して届けることで、お客様がレースに集中して楽しめる環境を支えています。



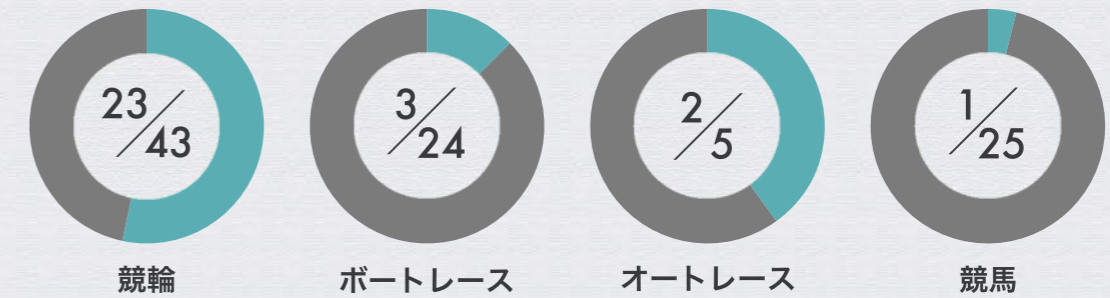
#### 写真判定



#### 審判VTR



#### TV業務



#### その他受託業務実績

##### 運営

- 場外発売所運営
- 案内所、売店運営
- 指定席エリア管理

##### 広告宣伝・イベント運営

- ホームページ制作、管理
- イベント企画、運営、キャストイング手配
- 販促支援（コマーシャル・ポスターグッズなどの制作、キャンペーン実施等）

##### 機器導入、保守

- デジタルサイネージ設置、運用、保守
- 大型および中型映像装置保守、点検
- 映像機器リース、保守、点検

##### 警備システム

- 場内映像・音声・監視カメラシステム設計、施工、運用、保守
- 整備室監視用テレビ保守
- 周辺交通監視用テレビ撮影



## 競輪投票サービス



### 競輪の感動を、もっと身近に

「みんなの競輪」は2019年に誕生したデジタル競輪投票サービスで、当社の想いである『公営競技から街を元気に』をデジタル領域で実現するためのプラットフォームです。投票画面は直感的で分かりやすく設計しており、競輪初心者から経験者まで誰もがインターネット上で手軽に競輪を楽しめます。スマートフォンやタブレット、PCなど様々な端末からアクセスできるほか、多様な決済手段に対応しているため、場所や時間を問わず競輪の興奮を手軽に体験できます。

「みんなの競輪」は単なる車券販売サイトではなく、JPFグループの競輪事業と地域活性化事業をつなぐマーケティングハブとしての役割も担っています。全国の競輪場との連携を強化し、コラボキャンペーンや冠協賛レースの実施、ご当地商品のプレゼントや還元施策などを通じて、オンラインとリアルな競輪場をつなぐ橋渡しとしても機能しています。

これにより、デジタルでの車券売上と競輪場自体への関心を同時に高めています。

当社は創業以来、写真判定業務をはじめ、競輪場の包括運営や放送業務まで幅広く担い、公営競技の公正と信頼を支えてきました。こうした知見と経験が、「みんなの競輪」の安定性と安心感につながっています。また、お客様の利用は単なる車券購入の楽しみだけでなく、地域社会の活性化やスポーツの未来への貢献にもつながります。収益の一部は地方財政や福祉、インフラ整備に還元されるとともに、アスリート育成やBMX・MTBなどのサイクルスポーツ振興にも再投資されています。デジタル投票の手軽さと競輪場の価値をつなぐハブとして、「みんなの競輪」は競輪業界全体の車券売上や認知度向上に貢献し、『競輪場のある街に住みたい』と思われる社会の実現を目指しています。



### 先進的なスポーツベッティング

関連会社である、当たるんです株式会社が提供する「当たるんです」は、オートレースの法律（小型自動車競走法）に基づいた、ロトくじ感覚で楽しめるスポーツベッティングサービスです。重勝式勝車投票法を活用し、公営競技の持つ可能性を最大限に引き出す形で誕生しました。サービスの特長は、高い還元率です。宝くじやスポーツくじが法律で50%以下に制限されるのに対し、公営競技は70%以上の還元率を誇ります。また、4,096名に1人の当選確率で当選者が誕生する仕組みや、専門知識がなくても手軽に参加できる点から幅広い年齢層にご利用いただき、会員数は50万名を突破しました。この手軽さが新しいオートレースファンの入り口となり、競技場への来場者も増加しています。さらに、売上の一部は地方財政への貢献や社会福祉の増進などに活用され、地域に還元されています。「当たるんです」は単に車券を発売するだけでなく、地域のスポーツ文化を育み、

競技場をコミュニティの拠点として盛り上げることも目指しています。ここで築いたビジネスのノウハウは、JPFグループが目指す「スポーツベッティングの新しい可能性」を創造する第一歩です。今後はこのモデルを発展させ、他の公営競技や当社の多様なスポーツ事業と連携することを視野に入れています。スポーツを社会のために役立てる事業の中核として、さらに成長させていきます。



## JPF PEOPLE DEVELOPMENT JPF の人材育成

### 教育 × 制度の シナジーで 業務の質向上へ



### 制度が育む、持続可能な自転車文化

当社は『自転車競技を日本のメジャースポーツに』という想いのもと、社員一人ひとりが自転車競技の魅力を理解し、自ら発信していくことが重要だと考えています。自転車競技に関する知識を習得するため、競技経験者などによる座学研修や、実際に競技用自転車に乗る実技研修を実施しています。山梨マウンテンバイク研修では、実際にトレイル整備を行い、コースづくりや運営の裏側を学ぶとともに、自転車業界について学んでいます。



さらに、当社はロードバイクなどの購入費用を助成する制度を設けており、社員が競技用自転車に乗ることを通じて面白さや奥深さを体感しています。

こうした経験を通じて、業務理解の土台をつくり、競技の楽しさを発信できるようになります。ひいては自転車業界全体への好影響へとつながっています。

## JPF SCHOLARSHIP SYSTEM JPF の奨学金制度



### 未来へつなぐ支援を

### 挑戦を支える奨学金制度

自転車競技選手がより高いレベルに挑戦できる環境を整えるため、その努力を支える体制の一環として、2025年にJPF奨学金制度を設立しました。本制度では、競技成績だけでなく学業や将来への意欲にも目を向け、経済的負担を軽減しながら競技に専念できる環境づくりを支援しています。

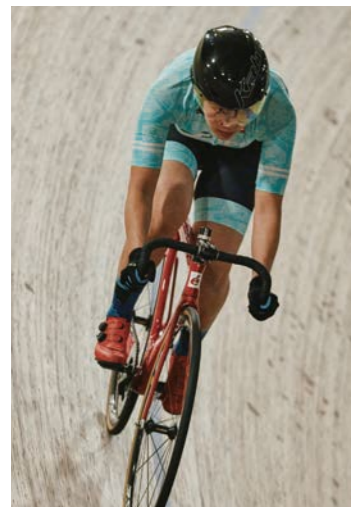
さらに、奨学生同士の交流やSNSを通じた発信の機会を設けることで、人間性や社会性の成長も後押ししています。競技人生のその先までを見据え、引退後も競技界を支えられる人材を生み出すことも本制度の目的の一つです。



JPF ATHLETES JPFのアスリート出身社員

自転車競技経験を  
事業の強みへ

当社は質の高い自転車振興の実現を目指し、元自転車競技者を積極的に採用しています。現在約50名の元競技者が在籍し、競技で培った知見を運営や育成、安全管理、指導などの多様な業務に生かしています。



TRACK **中村 妃智**

取得している資格

- (公財) 日本スポーツ協会 公認コーチ3 (自転車競技)
- 中学校・高等学校教諭一種免許状 (保健体育)

競技実績

- 2021年 東京2020オリンピック競技大会自転車競技 (トラック) マディソン 女子エリート出場
- 2021年 UCIネーションズカップ (香港) マディソン 女子エリート優勝

BMX **佐伯 進**

取得している資格

- (一社) 全日本BMX連盟インストラクター
- (公財) 日本自転車競技連盟 第3級公認審判員 (BMX)

競技実績

- 全日本自転車競技選手権大会 (BMXレーシング) エリート 3連覇
- 全日本自転車競技選手権大会 (BMXレーシング) マスターズ 4連覇

ROAD **飯野 智行**



競技実績

- 2012年 JBCF Jプロツアー輪島ロードレース 優勝
- 2013年 UCI ツアー・オブ・ジャパン富士山ステージ 8位 (日本人最高位)
- 2013年 UCI ツール・ド・台湾 日本代表に選出

BMX **島田 忠彦**



取得している資格

- (公財) 日本スポーツ協会 公認コーチ3 (自転車競技)
- (公財) 日本自転車競技連盟 第2級公認審判員 (BMX)

競技実績

- 全日本自転車競技選手権大会 (BMXレーシング) 35歳オーバー 3連覇
- 2025年 ACCアジア自転車競技選手権大会 (BMXレーシング) マスターズ 3位

MTB **松尾 純**



取得している資格

- (公財) 日本スポーツ協会 公認コーチ3 (自転車競技)
- PMBIA 認定マウンテンバイクインストラクター レベル1

競技実績

- 2015年 全日本自転車競技選手権大会 (マウンテンバイク) XCO エリート 9位
- 2016年 全日本自転車競技選手権大会 (マウンテンバイク) XCO エリート 9位

ROAD TRACK **石上 夢乃**



取得している資格

- (公財) 日本スポーツ協会 公認コーチ1 (自転車競技)
- (公財) 日本自転車競技連盟 第2級公認審判員 (ロード/トラック)

競技実績

- 2018年 ACCアジア自転車競技選手権大会 (トラック) オムニウム 女子ジュニア優勝
- 2021年 全日本自転車競技選手権大会 (個人タイム・トライアル) 女子U23 優勝

TRACK **山岸 正教**



取得している資格

- (公財) 日本スポーツ協会 公認コーチ3 (自転車競技)
- (公財) 日本自転車競技連盟 第2級公認審判員 (ロード・トラック・シクロクロス)

競技実績

- 1994年 全日本大学対抗自転車競技選手権大会 4km 速度競走 優勝
- 2003年 全日本実業団自転車競技選手権 エリミネーション 優勝

MTB **山田 将輝**



取得している資格

- (公財) 日本スポーツ協会 公認コーチ3 (自転車競技)

競技実績

- 2014年 南京ユースオリンピック競技大会 自転車競技代表選出
- 2015年 ACCアジア自転車競技選手権大会 (MTB/XCO) ジュニア 3位

## HISTORY 沿革

**1939** 渡辺俊平が写真判定の研究に従事。

**1949** 日本スポーツ写真判定協会を発足。写真判定業務を開始。

**1950** 写真判定用スリットカメラ発明。通商産業省より「優秀発明」に認定される。

**1951** 日本ホトフイニ株式会社に改組。

**1957** 日本写真判定株式会社に社名変更。

**1964** 東京オリンピックで陸上・自転車・漕艇競技において写真判定業務を担当。

**1968** 東京都優秀発明展で「競走着順判定装置」が科学技術庁長官賞を受賞。

**1992** バルセロナオリンピックで陸上・自転車・漕艇・カヌー競技において写真判定業務を担当。

**2010** 富山競輪場のトータルマネジメント業務開始。

**2013** 千葉競輪場のトータルマネジメント業務を開始。松阪競輪場のトータルマネジメント業務を開始。

**2014** 山陽オートレース場のトータルマネジメント業務を開始。

**2015** 東京都スポーツ推進企業として認定される。(以降毎年認定)  
※2019年、2025年にはモデル企業に選定。

**2017** 京都向日町競輪場のトータルマネジメント業務を開始。

**2021** 株式会社JPFに社名変更。名古屋競輪場のトータルマネジメント業務を開始。

**2025** 名古屋競輪場BMXレースコースの指定管理を開始。

**2026** スポーツ庁よりスポーツエールカンパニー 2026企業(シルバー)として認定される。

## OVERVIEW 概要

商号：株式会社 JPF  
 資本金：3,000 万円  
 総従業員数：775 名 (2026 年 3 月現在)  
 設立年：1951 年

### 関連会社・関連団体

株式会社 JPFagri (2008)  
 株式会社 JPF イノベーション (2009)  
 当たるんです株式会社 (2017)  
 一般財団法人 日本サイクルスポーツ振興会 (2018)  
 株式会社 PIST6 (2021)  
 一般財団法人 SDGs 大多喜学園 (2022)  
 株式会社 JPF サーフ (2025)

## NETWORK ネットワーク

競輪 (Yellow square)  
 競馬 (Green square)  
 ボートレース (Blue square)  
 オートレース (Orange square)

〈北海道 公営競技場〉  
 北海道

〈東北地方 公営競技場〉  
 青森県  
 福島県

〈関東地方 公営競技場〉  
 東京都  
 神奈川県  
 埼玉県  
 千葉県  
 茨城県  
 栃木県  
 群馬県

〈北陸地方 公営競技場〉  
 新潟県  
 富山県  
 福井県

〈中国地方 公営競技場〉  
 岡山県  
 広島県  
 山口県

〈四国地方 公営競技場〉  
 徳島県  
 香川県  
 愛媛県  
 高知県

〈九州地方 公営競技場〉  
 福岡県  
 佐賀県  
 長崎県  
 熊本県  
 大分県

〈近畿地方 公営競技場〉  
 大阪府  
 京都府  
 奈良県  
 和歌山県

〈東海地方 公営競技場〉  
 静岡県  
 愛知県  
 岐阜県  
 三重県

富山事業所 / 株式会社 JPF イノベーション  
 株式会社 JPF サーフ 京都事業所  
 山陽事業所  
 衛星ライト中洲 / 中洲事務所  
 岡山事務所  
 松阪事業所  
 川越場外車券売場  
 名古屋事業所 / 愛知事務所  
 いわき事務所  
 JPF本社 / 東京事務所 / 当たるんです株式会社  
 PIST6 千葉改革推進事業所 / 株式会社 PIST6  
 株式会社 JPFagri